

県議会の概要説明

オリエンテーションの中で、荻田議会運営委員長から、議員定数と選挙区、会派、常任委員会、特別委員会及び議会運営委員会等の議会のしくみや、議会の議決権及び調査・検査権、県民の利益につながる意見書の提出、県民からの請願・陳情の審査等の議会の役割や仕事、並びに議員の活動等についての概要説明が行われました。



(於：第1委員会室)

議会運営委員会

本会議が公正円滑に運営できるよう、会派を代表する議員により本会議の議事日程等を話し合い、議員全員の合意形成を行うための議会運営委員会が、各学校を一つの会派とみなして、各学校を代表する高校生議員により開催されました。



(於：議会運営委員会室)

本会議

開会 午後1時01分

○岡本県議会事務局長

一同、ご起立願います。礼。

ご着席願います。

ただいまから奈良県高校生議会を開催いたします。

まず初めに、中野雅史奈良県議会議長からご挨拶を申し上げます。

議長挨拶

○中野県議会議長

皆さん、こんにちは。議長の中野でございます。



平成24年に開始をいたしました奈良県高校生議会は、今回で12回目を迎えるに至りました。ようこそお集まりをくださいました。心から皆さんを歓迎申し上げます。

開催に当たりましてご協力をいただきました各学校の先生、あるいは関係者の皆様に、この場をお借りいたしまして厚く御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

さて、この高校生議会は、次世代を担う高校生の皆さんが知事や教育長及び部局長並びに県議会議員と、住みよく魅力ある奈良県づくりについて意見を交換することにより、奈良県政や県議会への理解と関心を深めていただくとともに、若者の

感性や発想で質問や提言をしていただき、我々議員も一緒に考え、学ぶために開催をいたしております。本日予定されている質問項目を拝見させていただきました。災害対策や観光政策など、時宜を得た多様な内容となっており、若さと元気のある発言を期待するとともに、大いに楽しみにいたしております。若い方の政治離れが危惧されていますが、奈良県の政治に興味を持っていただき、この高校生議会に参加したいと申し込んでいただいた高校生が多くおられることを大変うれしく思う次第でございます。

本日の経験が皆様の将来に有意義なものになることを祈念申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございます。

○岡本県議会議務局長

続きまして、山下真奈良県知事からご挨拶をいただきます。

知 事 挨 拶

○山下知事

高校生議会の開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

ようこそ、皆さん、今日は奈良県の高校生議会にご参加くださいました。



県の政治には、あまり皆さんなじみがないかもしれません。市役所や町村役場には行ったことがあるけれども、県庁には行ったことがない、そういう人が大半ではないかと思います。今日お越しの皆さんには、県立高校の生徒も、私立高校の生

徒もいらっしゃると思いますが、県立高校の運営には、この県の行政が非常に深く関わっております。また、私立高校の運営は、それぞれの私立学校を運営している学校法人が担っていますが、県から一定の補助金を出していたり、また、例えば今年4月から私立高校の生徒さんの授業料については、世帯年収910万円までのご家庭において実質無償になりましたが、そうした無償にするための財源は県から出ているわけです。その皆さんの授業料を無償にするということを決めたのは、この議場です。ですから、皆さんの通っておられる学校の運営や、あるいは皆さんが負担する授業料の額、そういうことにこの奈良県議会はすごく深く関わっているのです。

では、学校だけが県の行政と皆さんの生活との関わりかかるといって、決してそんなことはなくて、例えば皆さんは電車やバス、あるいは自転車や徒歩で通学していると思いますが、そういう道路を整備するのも県ですし、過疎地域のバスは、運賃収入だけでは運営できませんので、そういう公共交通機関に補助金を出しているのも県です。また、警察の予算も県が負担をしています。それから、皆さんが病気になれば病院に行かれますと思いますが、奈良県では高校生までの医療費は無償です。その皆さんの医療費が無償になっているのは、市町村と県が半分ずつ、その費用を負担しているからなのです。それ以外にも様々なことで、皆さんの生活と県の行政は関わりがございます。皆さんが高校生になる前は中学生、小学生だったと思いますが、公立の小学校や中学校の先生は県の職員なのです。県で採用している先生が各小学校や中学校に派遣されていて、さらに小学校に入る以前の子育て支援として、保育園や幼稚園、こども園に関しても、県は市町村と共に様々なサポートをしているわけです。さらに、皆さんが大学に進学した場合、奈良県は奈良県立大学と奈良県立医科大学を運営しています。また、奈良県内で就職される方もおられると思いますが、奈良県内の企業に頑張ってくださいのために県としてもいろいろな応援をしているわけです。奈良県内の企業が頑張

れば、皆さんの就職のときに採用数が増えるかもしれません。いろいろな意味で、県の行政は、皆さんの生活に実は関わっているのです。

その皆さんの生活に関わる大事なことを決めているのが、この議場です。この議場では、予算と条例を審議します。予算というのは、奈良県の行政に関するお金をどう使うかです。法律は国会で決めますが、条例というのは、奈良県の中で適用されるルールで、その条例はこの議場で決めています。お金の使い方とルールという非常に重要なことを決めているのがこの議場ということです。日本は民主主義の国ですので、この場にふだん出席して、皆さんのところに座っているのが、県議会議員の皆さんです。皆さんの学校でも生徒会の会長や副会長は選挙で決めますよね。それと同じように、県議会議員も選挙で選ばれていて、私も選挙で選ばれています。そのほかの副知事や部局長は、私が任命していて、つまり、奈良県の行政というのは全て選挙で選ばれた私が副知事や部局長、それ以下の職員のサポートを得て予算案や条例案を提出して、それを選挙で選ばれた県議会議員が多数決で決める、そういうまさに民主主義に基づいて議会が行われているわけです。これを大きくしたのが国会と中央政府ですが、皆さんにそういう民主主義に基づく行政がどのように運営されているのかを少し知ってもらいたいという思いで、今日は高校生議会を開催しています。

日頃、あまり奈良県や奈良県の行政について考えることはないかもしれませんが、将来、皆さんが18歳になったら投票する1票が県議会議員や知事を決めるので、今日来られた皆さんには、皆さんの1票が皆さんの代表を選び、その代表が皆さんの生活に関わることを決めているということを理解していただいて、絶対選挙は棄権しないでほしいと思っています。また、政治や行政の仕事は、ニュースなどを見ると、何か政治家の不祥事や悪口ばかり報じられていて、政治家なんてなるものじゃない、政治家は悪い人ばかりだと思っているかもしれませんが、そういう人は一部であって、みんな真面目に仕事をしています。責任も重

い代わりに、やりがいもある仕事なので、皆さんの中で、将来、議員を目指そうとか、知事を目指そうという人が出てきたら、すごくうれしいなと思いますし、あるいは、選挙で立候補するのは自分にはできないと感じる人は、県職員になるという道もあり、そういう政治家や行政職員の仕事は非常にやりがいがありますので、ぜひそういった仕事に興味を持ってほしいと思います。

それから、先ほど中野議長もおっしゃっていましたが、この高校生議会で、皆さんからいただく質問や提言は、実は素晴らしいものが多いのです。去年、私は初めて参加しましたが、よくこんなことに気がついたとか、これはぜひ県ですぐやりたいとか、本当にそう思うような質問、提言が多くて、皆さんのここでの質問、提言は非常に私たちも参考になりますし、実際に県行政で実現した例もありますので、そういう意味で、我々にとっても、皆さんのフレッシュな感覚、若者ならではの知性、感性に基づく提言は非常に役に立ちますので、そういうのを吸収したいと思います。

そういう思いでこの高校生議会を開催しておりますので、今日は、短い時間ですが、皆さんにとっても我々にとっても実りのある議会になればと思っております。今日は、ご参加いただきまして本当にありがとうございます。

○岡本県議会事務局長

次に、本日参加くださいました高校生議員の皆様をご紹介します。名前を呼ばれましたらご起立をお願いします。

(個々の紹介は高校生議員名簿をご参照ください。)

続きまして、理事者の紹介をいたします。

山下真奈良県知事でございます。

なお、山下知事と共にご出席いただいております理事者の皆様のご紹介につきましては、誠に恐縮でございますが、お手元の座席表をもって代えさせていただきます。



また、本日まで出席いただいております県議会議員の皆様につきましても、お手元の出席議員名簿をもって紹介に代えさせていただきます。

次に、奈良県高校生議会の議長を大和高田市立高田商業高等学校、藤村美瑠議員、県立国際高等学校、長屋枝里議員に務めていただきます。

それでは、藤村議長、議会の進行をよろしくお願いたします。

開 議

知事等との意見交換

高校生からの学校紹介・質問

○藤村高校生議長

ただいまから奈良県高校生議会を開会します。
それでは、学校紹介及び県政に対する質問を行います。



(大和高田市立高田商業高等学校 藤村 美瑠 議員)
順位に従い、県立郡山高等学校、1番、武内蒼太議員、2番、井出律貴議員に発言を許します。

○武内議員

1番、武内蒼太です。県立郡山高等学校の紹介をします。

県立郡山高等学校は、郡山城跡に建てられた長い歴史と伝統のある学校で、昨年創立130周年を迎えました。本校では、文武両道の精神を大切にし、勉学はもちろん、部活動やボランティア活動など、様々な活動に日々打ち込んでいます。

「誠実・剛毅・雄大」の校訓の下、在籍する約1,100名の生徒が郡高生としての誇りを持って学校生活を送っています。

部活動では、ホッケー部や山岳部、箏曲部など、県内でも数少ない珍しい部活動を含め、36の部活動が熱心に活動しています。近畿大会や全国大会に出場する部活動もたくさんあり、部活動加入

率は100%に迫る高さです。ほとんどの生徒が学業と両立して部活動に取り組み、学校全体が活気に満ちあふれています。



(県立郡山高等学校 武内 蒼太 議員)

ボランティア活動にも積極的に参加し、8月に行われるやまの夏まつりや、11月に行われる親子まつりでは、生徒会執行部がボランティアとして参加しています。また、4月のお城まつりに吹奏楽部、箏曲部、茶道部が参加したり、山岳部が毎年7月に城址公園の清掃ボランティアを行ったりしています。学校としては、年に2回、クリーンキャンペーンを実施し、学校周辺の清掃活動を行っています。

また、国際議会やグローバルな活動にも熱心に取り組んでおり、年に一度、生徒が海外へ行き、研修活動を行うリーダー育成海外研修を実施しています。

このように、県立郡山高等学校は、先輩方が築かれた長い歴史と伝統を守り、地域とのつながりを大切にし、また、グローバルな視点を持って多様な活動を行うことのできる学校です。学校紹介は以上です。

○井出議員

2番、井出律貴です。災害時の山間地域への対応について質問します。

私は、メディアで南海トラフ巨大地震や防災について取り上げているのをよく見ます。それに伴い、人々の防災意識は大きく高まってきたと感じています。私も防災に興味を持ち、昨年、防災士

の資格を取得しました。

日本は災害の多い国であり、今年に入ってから多くの地震や水害が発生しています。特に今年の1月1日に起こった能登半島地震は、奈良県でも大きな揺れを感じ、恐怖を感じた人も多かったと思います。この地震は、石川県を中心に広い範囲に強い揺れをもたらし、志賀町や輪島市では震度7を観測したほか、津波も観測されました。そして、この地震で能登半島の主要道路である国道249号が寸断され、能登半島の多くの集落が孤立状態に陥りました。それにより、物資の輸送や救助隊の派遣が遅れ、被災された方がより厳しい生活をせざるを得なくなりました。もし奈良県で大きな災害が起こったら、能登半島と同じように、奈良県内で孤立状態に陥る地域が出てくる可能性があると考えられます。特に奈良県南部の山間部は、道路の本数が少なく、主要な道路が通行止めになれば、救護車両などが被災地に到着できない事態が生じることが予想されます。実際、奈良県南部地域では、土砂災害によって道路が通行止めになり、道路の復旧にかなりの時間を要しています。



(県立郡山高等学校 井出 律貴 議員)

そこで、知事に質問します。災害時に県内の山間部で孤立状態に陥る地域が生じた場合の県としての対応や、そもそもそのような孤立状態に陥る地域が生じないようにするための施策についてお聞かせください。

○山下知事

ご質問ありがとうございます。

今年1月1日に発生した能登半島地震では、唯一の幹線道路である国道249号が寸断し、復旧に多大な時間を要し、孤立集落が長期間発生しました。これは、先ほど井出議員がご質問されたとおりです。この理由は、山が多い半島という地域的な特性もありますし、迂回路が少ないなど、孤立集落が解消されにくいという要因があったものと認識をしております。

災害により現実に孤立集落が発生した場合には、まず、住民の安否情報や道路のアクセス状況などの被災状況を把握するため、市町村や消防、警察などと連携して情報収集を行い、孤立が解消されるまでの間、被災状況に応じてヘリコプターによる救助活動や救援物資の輸送など、必要な支援を行います。



これらの支援を確実に実施するためには、あらかじめ孤立する可能性がある集落や活用が可能な臨時ヘリポートの位置情報を各消防本部、県防災航空隊などと情報を共有しております。また、本県では、人命救助のタイムリミットとされる発災後72時間以内に基幹道路の主要拠点に緊急車両等が早急に通行できるよう、最低限の瓦礫処理や簡易な段差修正等を行う救援ルートの確保のための計画策定にも取り組んでおります。あわせて、奈良県建設業協会などと協定を締結することにより、土砂崩落等の道路災害の場合には、速やかに復旧工事を進めております。

なお、防災の基本は、みずからの安全はみずか

らが守るという原則であることから、孤立に備え、住民や地域において、最低3日間、できれば1週間分の食料や飲料水及び生活必需品の確保をしていただけるよう、市町村と共に呼びかけているところでございます。

また、能登半島と同様に、同じ半島である紀伊半島におきましては、今後30年以内に発生する確率が70%から80%とされる南海トラフ巨大地震に備えて、沿海部と内陸からのアクセスルートで構成された紀伊半島アンカールートの整備を促進しているところです。平成23年の紀伊半島大水害では、トンネルと橋で造られた高規格道路は被害を受けず、災害復旧と支援に大きな役割を果たしたところです。このため、奈良県の南部においては、国と県が連携して、紀伊半島アンカールート構成する、五條神宮道路と呼ばれる国道168号、それから、奈良中部熊野道路と呼ばれる国道169号、これら2つの国道の早期整備に取り組んでいるところです。

○藤村高校生議長

再質問はありますか。

ないようですので、次の質問を行います。

次に、奈良県立大学附属高等学校、5番、高橋トーマス泰河議員、6番、川村奈桜子議員に発言を許します。

○高橋議員

5番、高橋トーマス泰河です。奈良県立大学附属高等学校の紹介をします。

奈良県立大学附属高等学校は令和4年4月に開校し、今年度で3年目を迎えます。本校では、「自立・貢献・挑戦」の生徒綱領の下、県内唯一の探究科の単科高校として日々探究活動に励んでいます。1年次から週に3時間の課題探究の時間が設けられており、毎年3月には、一人ひとりが取り組む探究活動の集大成として、探究フォーラムが開催されます。また、各教科の授業は、ICTを活用した反転学習を行っており、事前に予習してきた知識を使って、対話的で探究的な学習に

も取り組んでいます。



(奈良県立大学附属高等学校 高橋トーマス泰河 議員)

本校では、生徒同士はもちろん、生徒と教員など、多くの人との対話と議論を大切にしています。対話と議論を繰り返す中で、生徒一人ひとりが主体的に物事を考えることができます。例えば本校には制服がありません。制服ではなく、標準服を設けています。これは、服装一つを取っても、生徒みずからがその場にふさわしい服装を自分で考えるためです。このように、私たちは日々の学校生活で常にみずから考えることを意識して行動しています。また、本校では、生徒一人ひとりの個性が大切にされています。奈良県立大学との高大連携も行っており、奈良県立大学の教授に来ていただき、大学の講義を体験することもできます。また、高校3年生になると、大学生と一緒に奈良県立大学の講義を受けるコースもあります。

高校生のうちから多様な学びに触れることができ、生徒一人ひとりが自分らしく輝き、成長することができる学校です。学校紹介は以上です。

○川村(奈) 議員

6番、川村奈桜子です。奈良県の持続可能な教育、子育て支援政策について質問します。

昨今は、円安や国際情勢の目まぐるしい変化の影響を受けて、日本では様々な物の価格が上昇しています。一方で、労働者の賃金上昇は追いついておらず、実質賃金がマイナスの状況のほうが多くなっています。

そのような中、今年3月に奈良県の今年度予算

案の修正案が県議会で可決されました。今年度の予算案について、山下真知事は、未来に向けた投資が盛り込まれ、未来にツケを回さないものになっているとおっしゃっていました。本予算案では、山下真知事が公約に掲げておられた教育、子育て支援の新事業が多く盛り込まれています。奈良県の公式ウェブサイトを見ると、教育、子育て支援の新事業として、高校の授業料の無償化や保育士の処遇改善などが上げられています。



(奈良県立大学附属高等学校 川村 奈桜子 議員)

その中でも、私は、高校授業料の無償化について関心を持っています。高校授業料の無償化は、教育の充実、高等学校の選択の幅が広がるなど、子どもたちの学びの幅が広がり、大きなメリットがあります。多くの家庭で実質賃金がマイナスである状況で、教育に係る費用が保障されることは、家計の負担が軽くなり、非常に助かると思います。

今年度の予算案を見ると、令和6年度の奈良県の教育費は約1,129億円となっています。高校無償化などの新事業が始まったことにより、今後の教育に関する費用の支出は以前より増加すると考えられますが、それらの事業を継続しながら、今後も十分な教育費を確保することはできるのでしょうか。確かに教育の充実のための財源として、山下真知事は、退職金を受け取らない意思を示されています。また、前奈良県知事が構想していた箱物事業や大型プロジェクト事業について再検討したり、中止したりする方針であるとも示されています。私は、教育は人を育てる非常に重要な分野であり、ぜひ今後も持続可能な奈良県の教育政

策を実施していただきたいと思っています。

そこで、知事に質問です。今後の持続可能な教育、子育て支援政策について、どのように取り組んでいこうとお考えでしょうか、お聞かせください。

○山下知事

奈良県の令和6年度予算について、詳しく調べていただいて、ご質問くださいまして、どうもありがとうございます。

ご質問の趣旨は、教育の充実の施策がこれからも持続可能なかどうかということかと思いますが、これについて、私からお答えをさせていただきますと思います。

まず、川村（奈）議員もお述べいただきましたが、未来への投資、次世代への投資というのは、奈良県の成長に必ずつながるという強い信念の下、取り組んでいるところです。教育につきましては、この奈良県で育つ子どもたちが、ご家庭の経済状況にかかわらず、希望する進路に進めるように、本年4月から県内の高校の授業料を実質無償化したところです。現時点では、例えば世帯年収910万円以上のご家庭の場合、子ども1人当たり約10万円の補助となり、金額が少ないとか、あるいは、奈良県から奈良県外の私立高校に通っているご家庭に対しては補助がないなど、まだまだ必ずしも完璧な制度ではないですが、今後、財源の確保をさらに進めて、この制度を充実していきたいと考えております。

県立高校につきましては、建物や、建物の中に設置されている機器や設備が非常に古いというような問題があり、これから順次、その古くなったものを取り替えたり、あるいは改修していったりしますが、特に保護者や生徒から改善の希望が多かったトイレにつきまして、今年度から5年間で洋式化に加えて、今までは水をまいて掃除していたのを家のトイレと同じように、普通に雑巾やモップで掃除できるように乾式化していきたいと考えております。

子育て支援につきましては、先ほどご紹介いた

だきました保育士の処遇改善といったことのほか、冒頭の挨拶でも申し上げましたが、医療費の無償化や、あるいは不妊治療への助成について、今取り組んでいるところです。そうした県の子育て施策を体系的、計画的に進めるため、奈良県こどもまんなか未来戦略という計画を今年度中につくりたいと考えております。これは、子どもを社会の真ん中に置いて、社会全体で子どもを育てていく、支援していく、温かい県民性を育むということを目的にしております。子育てに関係する行政の部門だけではなく、県庁を挙げて、また、市町村や企業と共に、そういう社会の構築を進めるための戦略です。

この戦略の策定に当たっては、実際に支援する対象、応援する対象が子どもですので、その戦略の策定に当たって、子ども、若者の意見を取り入れたいということで、奈良県こども・子育て支援推進会議の委員に、16歳と21歳の子ども・若者の委員を選任したところで、これはこれまでやってこなかった新しい取組です。先日、その2人の子ども・若者の委員から意見を聞いたところです。また、なかなか意見を言うためにわざわざ県庁に出向くことが難しい、時間がないという高校生も多いかと思っておりますので、小学校1年生から29歳までの子ども・若者がいつでも、そして、どこからでも意見を届けられるように、メールで意見を届けていただいて、我々、県職員がそれを拝見するという、奈良県こどもまんなかクラブという会議体も設けて取組を進めているところです。

こうした教育支援施策、子育て支援施策を継続して推進していくには、川村（奈）議員ご指摘のとおり、財源が必要で、この財源確保のために、私が退職金を受け取らないことをはじめとする、様々な行財政改革や、前知事時代に計画されていた大きな箱物事業や大規模プロジェクトを見直したわけですが、これで万全だと思っているわけではありませんので、引き続き、県行政における無駄遣いを徹底的に無くしていくという強い決意で、まずは、無駄遣いを無くしていくことに取り組むとともに、新たに奈良県に企業を誘致したり、あ